



気土第 2142 号  
平成26年2月21日

小泉海岸及び津谷川の災害復旧事業を学び合う会  
会長 阿部正一 殿

宮城県気仙沼土木事務所長



中島（小泉）海岸及び津谷川の災害復旧事業について（回答）

本県の土木行政の推進につきましては、日ごろ格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成26年2月3日付けで御要望のありました事項につきましては、下記のとおり回答いたします。

今後とも、災害復旧・復興事業の推進につきまして、御理解と御協力を賜りますよう御願い申し上げます。

記

要 望	回 答
1 高さ 14.7m、幅 90m の防潮堤の大きさが実感できる現地での表示の設置。	防潮堤の位置が現地で確認できる表示方法について、現場条件を考慮して検討してまいります。
2 人物の入った視点を変えた防潮堤のコース（縮尺は正確に）と9月と11月の説明会での議事録（すべての発言と回答）を地元の住民に分かりやすい用語の解説をつけて、日本吉町地域に毎戸配布する。 ① 全体像を空から見た視点 ② 小泉小学校の駐車場からの視点 ③ 中島の水田（農業者）からの視点 ④ 沖合（サーファー）から見た視点 ⑤ 砂浜（観光客）から見上げた視点 ⑥ 津谷川（釣り人）から見た視点	防潮堤のコースについては、住民の皆様の理解が深められますよう、イメージコース等の作成及び公表方法も含めて、検討を進めてまいります。 また、説明会の議事録をまとめた概要については、別紙1、2のとおりです。
3 地域住民に配付する資料には、高台移転と防潮堤の建設は直接関係がないことを気仙沼土木事務所からはっきりと伝えて欲しい。	県としては、防潮堤の事業が防災集団移転事業の進捗に直接影響を与えるものではないと考えており、その旨をこれまでの説明会で説明しています。

<p>4 復旧事業の現状と工期の予定について 公開すること。</p>	<p>中島海岸につきましては、用地買収が概ね完了しております。また、津谷川につきましては、土地所有者を対象とした用地説明会を開催する予定です。なお、外尾川の河口部処理及び干潟保全については現在検討中です。また、工事の発注については、平成26年度には工事発注に向けて手続きを進めたいと考えています。</p>
<p>5 セットバックした原形復旧（国道、三陸道が建設された場合）での、L1津波に対するシミュレーションの提示。</p>	<p>今回計画している防潮堤は、L1津波から背後地を防護するために必要な高さで計画しており、現時点において原形復旧による津波シミュレーションは考えておりません。</p>